

スズキ ヒサオ
鈴木 久男
文化学部・教授
文化学士／奈良大学

主な研究業績

- 共著「鳥羽離宮庭園から見た鳥羽上皇の浄土観」『『作庭記』と日本の庭園』思文閣出版2014年3月
- 共著「発掘された室町將軍の庭」奈良文化財研究所学報2014年3月
- 共著「一九七三年発見の朱雀院掘立柱建物」『平安京と貴族の住まい』京都大学学術出版会 2012年6月
- 共著「発掘調査から見てきた鳥羽離宮」『鳥羽離宮を訪ねて』京都渡来文化ネットワーク会議 2012年6月
- 「発掘された鎌倉時代の京都の庭園」『鎌倉時代庭園』奈良文化財研究所学報 2012年
- 『鹿苑寺境内不動堂石室調査報告書』鹿苑寺境内不動堂石室調査委員会 2011年
- 「平安京右京六条一坊六町の仏堂とその宅地」『季刊 古代文化』第62巻第4号 2011年
- 「発掘遺構から見た平安時代庭園」『平安時代庭園の研究』奈良文化財研究所学報 第86冊 2011年
- 共著「平安京の邸宅と庭園」『恒久の都 平安京』吉川弘文館 2010年
- 共著「不動堂石室の文字」『鹿苑寺と西園寺』鹿苑寺編(共著) 思文閣出版 2004年

研究テーマ

日本中世の住宅・庭園の研究

概要

鎌倉時代から室町時代にかけて営まれた、華麗な西園寺家北山殿は、鹿苑寺(金閣寺)境内に位置していた。境内に見られる鏡湖池や安民澤は、その当時の庭園の一部と考えられている。

平成15年秋、不動堂の本尊を安置する石室の壁から北山殿に関する文字資料が新たに発見された。文字のなかには「康永元」、「貞和二年」、「文和二年」、「応永十二年」などの年号があった。康永元年は西暦1342年、貞和二年は1346年、文和二年は1353年である。これらの文字から石室の成立は、少なくとも南北朝まで遡る可能性が高くなった。

これを解明するために、平成21年に石室内の発掘調査と不動堂北側の滝跡と考えられる痕跡を3次元測量した。その結果、石室は幾度も改修されたが、それでも造営当初の姿を留めていることを明らかにした。また滝については、落差や形状、位置などから『明月記』にある四五尺の滝とみて間違いのないことを再確認した。平成23年度は、その調査成果を『鹿苑寺境内不動堂石室調査報告書』としてまとめた。

平成24年は、滝へ水を供給していた水路跡の現地確認調査を実施し、その一部と思われる遺構の一部を左大文字山麓で確認した。そして、水源地からここまで、水が矛盾なく流れるかどうかを確認するために、遺構の標高を測量した。その結果、高低差に概ね矛盾がないことを明らかにした。

平成25年度は、発見した導水路の保存状況や写真撮影を実施した。また、遺構の観察なども行った。急峻な山麓に、導水路を計画し、その工事を完成させた土木技術の確かさに驚嘆した。平成26年度は、現地実測を予定している。